

福マネット

<発行日>
平成30年4月1日

第16号

「福マネット」とは“福島のカマネジャーのネットワークを深めていこう!”という思いが込められています。

巻頭言



一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 会長

千葉喜弘

今年の診療・介護報酬の改正は、微増のプラス改正となりましたが、最も手厚く内容が変更され加算が設置された分野は居宅介護支援事業所のケアマネ業務でした。

日本慢性期医療協会（日慢協）の武久洋三会長は平成30年2月8日の定例記者会見において、「今回の診療・介護報酬改定は、医療と介護の間の隙間をかなり埋めたのではないかと。その隙間を埋める役割を、『ケアマネジャーに頑張ってやってください』というのが改定の趣旨だと思う」と述べ、ケアマネが担う役割に期待感を示されました。

その中身は、ケアマネジャーに「総合力」が求められ、医療との密接な連携とカンファレンスへの参加が非常に重視されていることです。

「平時からの連携」としては、利用者が医療系サービスの利用を希望している場合、利用者の同意を得て主治医の意見を求めることとされていますが、この意見を求めた主治医に対してケアプランを交付することを義務化。また、訪問介護事業所などから伝達された利用者の口腔に関する問題や服薬の状況、モニタリングなどの際にケアマネ自身が把握した利用者の状態などについて、ケアマネから主治医などに必要な情報伝達を行うことを義務化。

「入院時の連携」としては、入院時に担当ケア

ネの名前などを入院先の医療機関に伝えるよう依頼することを義務化。入院時情報連携加算は、入院後3日以内のスピーディな情報提供を評価。

「退院・退所時の連携」としては、退院・退所時におけるケアプランの初回作成の手間を評価。特定事業所加算の中に、新たに“Ⅳ”が設置され、要件として退院・退所加算に係る「医療機関との連携を年35回以上行っていること」が盛り込まれました。医療機関などで開催されるカンファレンスに参加すれば上乘せで評価。

「末期がん利用者のケアマネジメントプロセスの簡素化」では、主治医などの助言を得ることを前提として、サービス担当者会議の招集を不要とすることができるようになりました。

ケアマネジャーの加算改定は医療機関側も大きな恩恵を受けます。退院後の療養生活をサポートするケアマネジャーなど3者以上と協力し、退院後の説明や指導を患者に行うことで得られる「退院時共同指導料2」の加算条件を満たしやすくなるからです。

「退院時共同指導料2」の診療報酬は2,000点ですから、医療機関側にとって大きなメリットになります。それには、今回の改定で退院時カンファレンスに参加するケアマネジャーが増加するという見込みがカギとなっています。医療機関との連携を強化することでケアマネジャーの報酬が上がるよう制度化されていますが、医療機関側がより多くの診療報酬を得る機会を生む内容でもあります。

さらには、共生型サービスの開始に伴い、障害者が介護保険サービスを利用する場合などにおける、医療機関とケアマネジャーと障害福祉制度の相談支援専門員との密接な連携に努める必要がある旨が示されました。

地域包括ケアシステムの実現に向けて、医療と介護と福祉の垣根を取り払って、真に住民の福利のためにケアマネが要となって活躍できるよう日々研鑽していきましょう。

目次

- 巻頭言..... 1
- 福マネットリレー“結”..... 2
- 介護保険グループ紹介..... 2
- 公開講演会・レポート..... 3
- 実務研修受講試験の結果について..... 4

ハイライト

- ◆千葉会長から皆様へ
- ◆石川地方の“結”
- ◆介護保険グループの活動内容
- ◆さくらいりょうこさんによる講演
- ◆介護支援専門員実務研修受講試験合格率向上

福マネット
リレー石川地方介護支援専門員
連絡協議会

会長 鈴木康正

石川地方は、阿武隈川水系の町村で福島県の南部に位置します。福島空港で旅行に便利な玉川村。国道沿いで県内要所のアクセスが良く、蓬田岳の芝桜はとても美しい平田村。自由民権運動の先駆けとされ、文武両道スポーツ盛んな石川町。人馬一体、伝統流鏑馬のふるさと古殿町。花火の里と称されお盆に開催される花火大会で大盛況の浅川町。以上のように特色豊かな町村が福島南部の温かな気候のなか、住み慣れた地域において仲良く暮らしているのが石川地方です。

当協議会では、平成12年の協議会発足より諸先輩方の実績を引き継ぎ、専門職としての資質向上のために他職種ならびに地域との連携を大切にして研修会や公開講演会等を企画実行しています。公開講演

会については、介護に関係する分野とは異なる内容のものも企画するなど、会員以外の地域の方でも無理されることなく参加できるように気遣いながらの活動を心がけています。専門職だからと鎧を身につけてしまわず、いかに柔軟な志向で立ち振る舞うかが大切と私自身考えて活動するようにしています。さらに、地域の方や医療従事者、行政関係者らと地域の課題について意見交換をするなど有意義な時間を過ごすことができています。

私たちは専門職と言われていますが、奢ることなく、同職種や他職種から学び、地域とそこで暮らしている人に学び、自然から学び、そして遊びから学ぶなど、幅広い好奇心と行動力の積み重ねにより、専門職である前に人として成長したいと考えます。



介護保険グループ紹介

介護保険グループ長 遠藤 由貴恵

福島県介護支援専門員協会は総務企画部、生涯研修部、法定研修部で構成され、介護保険グループは総務企画部の中に設置されています。

グループは、居宅チーム、施設チーム、地域密着チームがあり県理事と各地域からの委員が担当します。

活動目的は、制度の情報を収集するとともに、各地域でのケアマネの活動状況を把握し、皆さんの参考になる情報を発信して行くことです。

平成29年度は、平成30年度地域包括ケアシステムの本格稼働に向け、喜多方市の主任介護支援専門員の部会を視察してきましたので報告いたします。

この部会は、平成21年度に発足し、当初一人ケ

アマネの居宅介護支援事業所が多かった為、皆で主任ケアマネの役割を勉強しようというところから始まりました。

事例研究を通じてケースごとの通遍性を見出し、地域に必要な社会資源を発掘し、行政に働き掛ける事を目的にしているところです。

部会があることで、主任ケアマネの情報を共有し自己研鑽に繋がり、相談できる場所がある事で一人で悩まずに済み心強いそうです。

平成30年度も出来るだけ、地域に出向き介護支援専門員の生の声を聞き、情報提供をして行きたいと思います。

平成 29 年度

一般社団法人福島県介護支援専門員協会 公開講演会

西郷村社会福祉協議会指定居宅介護支援事業所 介護支援専門員 村上博子

講演者のさくらいりょうこさんはクローン病を患っています。クローン病は不治の病ともいわれ、腸の炎症を繰り返す病気です。りょうこさんは何度も手術や入院を繰り返し、生死の間を彷徨った結果「頑張る力」を失っていききました。どん底まで落ちたりょうこさんは、7年間の閉じ籠りを経て、どのようにして立ち直ったのでしょうか。

檀上のりょうこさんは細身でドレスの良く似合う笑顔の素敵な女性です。関西弁が小気味よく、ユーモアがあり親しみ易いお人柄で、大病を患っているとは思えない凛とした姿。オカリナの音色は、さすがフルート奏者だったことを感じさせる、聞きごたえのある美しい音色でした。とても死を覚悟した人の演奏とは思えません。今も新たな目標に向かって講演活動に励まれているその力の源は一体どこにあるのでしょうか。

きっかけは、ふっと見上げた夕暮れの雨上がりの光景が、あまりにも美しく涙が止まらなくなった時だそうです。その時初めて、病気で何もできないと思っていた自分は、いつも回りの人に支えられていたと、素直に感謝の気持ちが湧いてきたと言います。泣けるだけ泣い

て生まれ変わったと。7年という時間はかかりましたが一旦「生きたい」「音楽をしたい」という希望を抱くようになると、身体中から力が湧いてきたそうです。まず「自分が変わりたい」と行動を起こすことから始まり、出会いが生まれ、支援する人が増え、音楽を奏でるチャンスが巡ってくる、そしてその音楽を喜んでもらえた、演奏することが生きがいとなった訳です。

わが身に照らし合わせると、家庭の事情や年齢を理由に挑戦もしないうちから諦めることが何と多いことか。りょうこさんの様に沢山の人から喜ばれる目標でなくても、家庭の中のささやかな目標でも良いから、常に持っていたいと思います。自分の好きなことを続けて行けば、生きる力が生まれるのですね。それはそのまま、家族の幸せに繋がっていくのだと思います。

ケアマネとして人を支援する立場にあるのですから、同時に自分や家族の幸せも大切にしていきたいと考えます。講演から多くの気づきを得られたことに感謝します。ありがとうございました。

公開講演会レポート

福島県介護支援専門員協会 理事 野崎直子

平成29年11月12日(日)に白河市コミネスで公開講演会を開催しました。今回は大阪からフルート・オカリナ奏者のさくらいりょうこさんをお招きし「未来をくれためぐり逢い～今、ここにある幸せに心から感謝を～」のテーマでオカリナ演奏を交えながらの講演をして頂きました。フルート奏者として全国で演奏活動を展開し、将来期待されていた21歳の時に医師から難病「クローン病」の宣告を受け、一時期は演奏活動を断念。7年間とじこもり生活をし、挫折を乗り越え今は夢に向かって活動しています。私たちの仕事は、人と向き合う仕事です。しかし、自分と向き合う時間をどの程度持っているのでしょうか。研修を通して自分と向き合える時間を作ればと思います。今回このテーマを選びました。

さくらいさんの講演を聞いて、「夢」「希望」を

持つことは大切、諦めない。自分のやりたい事、困っていることを周りに話をする事で、応援してくれる人が出てくること。自分の思考の癖を知ることで人生の楽しさの加減は大きく変わる等の話が聞けました。また、さくらいさんが闘病中脳梗塞で父親が倒れ、父親なりに頑張っていたのにも関わらず、もっと頑張れと言ってしまったことを後悔していると話をしていました。相手の立場に立って考えることの大切さを振り返ることが出来ました。今は、母親が脳梗塞で要支援2の認定を受け介護サービスを利用している中、看護師さんから「私たちはプロですから安心して下さい」との言葉に力をもらい仕事が安心して出来る環境ですと話されてました。

私たち支援者として本人・家族の夢や希望などを支えられるようになればと思いました。



第20回介護支援専門員実務研修受講試験の結果について

20回目を迎えた介護支援専門員実務研修受講試験の結果は以下の通りです。

県内における合格率は15.8%でした。過去最低であった昨年（第19回）の11.9%から4ポイントの上昇です。

合格者の喜びはもちろんのこと、事業所を管理・運営するお立場の方にとっても大きな喜びであったと思われます。

また、合格された方々に対する「実習指導」を担当された方からは、アセスメントからプランニング、サービス担当者会議、モニタリング、給付管理業務と一連の業務をOJTすることで、居宅介護支援事業所及び介護支援専門員自身の業務内容を振り返る良い機会であったとの声も聞かれました。

実務研修を経て、この4月から実務についている方もいらっしゃると思われますが、将来は主任介護支援専門員や管理者など更なるキャリアアップを目指すとともに地域包括ケアシステムの担い手として活躍するためにも、当該地域協議会及び本協会への入会へのお誘いをお願いします。

受験者数 2,352人 (2,319人)

合格者数 372人 (275人)

合格率 15.8% (11.9%)

※福島県介護保険室HPから () 内は昨年度の結果

福島県介護支援専門員協会 ホームページリニューアル

本会のホームページがリニューアルしました。
最新情報及び研修情報がより充実、ブックマークをよろしくお願いします。

<http://www.fcma.jp>



発 行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会

会 長：千葉喜弘

事務局：郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号

TEL 024-924-7200 FAX 024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報グループ：仁井田義弘 伊東 靖裕 本名 由美 藤江 眞明 丹内美樹男 清野 公隆
根本 恵実 杉岡 久子 佐藤 裕洋 三本松久美子 齋藤 真尚 佐々木香織